

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4091400061		
法人名	社会福祉法人誠和会		
事業所名	グループホーム すみれの花		
所在地	福岡県福岡市早良区荒江3丁目20番3号 (電話) 092-833-1880		
自己評価作成日	令和元年11月25日	評価結果確定日	令和2年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

- ①毎月実施している地域カフェや地域行事・ラン伴にご利用者も参加して頂き、社会との繋がりの継続を図り、地域貢献活動にも力を入れています。
- ②ご利用者の生活歴や趣味嗜好を考慮し、ご本人の意思やペースを尊重しその方らしい暮らし方や個別支援の充実を心がけています。
- ③法人で、年間研修計画を立て他職種による指導や研修体制を整え、職員の質の向上に努めています。
- ④施設内の庭園は、四季折々の植物や木々があり散歩や季節感を楽しめます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和元年12月12日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は商業地区に隣接した住宅地で、同法人の施設と同じ敷地に位置している。周囲には保育所や学校、高齢者施設などが数多くある。鉄筋3階建ての2階にあり、3階部分には茶室や畑がある。敷地には木々に囲まれた庭があり、利用者にとって、季節の変化が感じられる楽しみな空間となっている。また、室内には絵画や生け花などが飾られ、温かみのある環境が整えられている。事業所は、ケアの質の向上のため、地域貢献や職員研修に積極的に取り組んでおり、法人全体の方針でもある。また職員が理念を具現化することで、各利用者は生き生きと暮らすことができ、利用者や家族が安心できる場所となっている。このことは利用者の笑顔や会話に表れている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人には、誠実・信頼・継続と理念がある。施設は「すべての方の人格を尊重し、共に歩み、共に喜びお一人お一人が主体性を持って地域での生活を継続出来るよう自立のお手伝いをさせていただきます」を方針として、朝礼で唱和し、会議などでも理解を深め意識向上と実践に努めている。	事業所独自の理念として、利用者の人格の尊重や主体的な生活の支援、地域密着の視点があり、職員は毎朝、理念を確認・共有している。個人を尊重した支援と地域や家族との結びつきを重視した取組に、職員は気持ちを一つに実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域清掃や地域行事に積極的に参加している。毎月第3日曜日に開催している地域カフェには、御利用者も参加して、地域住民との交流を深めている。買い物や散歩などでも地域の方と触れ合っている。	事業所は清掃活動や敬老会など地域活動に積極的に参加している。更に、住民の要望を受け、法人として開催されるようになった「あらえカフェ」や納涼祭も、利用者や地域住民が交流できる場となっている。その他、近隣の園児や小学生との交流もある。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の要請により、認知症サポーター養成講座やふれあいサロンへ講師を派遣している。月1回（第3日曜日）地域カフェを開催し地域の皆さんの交流の場を提供し地域より20名程参加。希望があれば、介護相談を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	校区公民館長、地域包括、民生委員、校区社協会長、区長、地域の方、利用者が参加し、2か月に1回偶数月に開催している。サービスの実際や取り組みなどを報告して、評価、助言を頂き、サービスの向上に活かしている。地域の要望も頂き、地域貢献活動に活かしている。	運営推進会議は区長をはじめとする地域代表者、行政や利用者家族など様々な立場の参加者で構成されている。会議では、事業所サービスの報告の他、事故報告も行われ、参加者からは事故防止の取組への意見や、地域の要望も出されるなど、活発な意見交換が行われている。事業所は出された意見を検討し、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営で分からないことや相談事があれば、行政や地域包括に出向き助言をいただいている。認知症キャラバンメイトとなり、養成があれば出向いている。	行政とはケアプランの相談をはじめ、介護保険の手続きや運営面についての相談や報告など、密に連絡を行っている。また、最近では、小学生を対象とした認知症サポーター養成講座を依頼されるなど、地域の介護事業に関わりながら、行政とは協力関係を構築している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で身体拘束委員会を設置し、委員を中心に取り組んでいる。委員が外部研修に参加し会議などで、利用者の対応やケアの工夫を話し合い身体拘束はしない取り組みを行い、年2回内部研修を開催し、身体拘束をしないケアについて職員間に周知している。	事業所は身体拘束しないケアに取り組んでいる。外出傾向が強い利用者についてあらかじめ会議で話し合い、外出や気分転換の運動を行うなど、工夫を重ねている。また、身体拘束廃止委員会が中心となり、身体拘束をしない取り組みのための会議や内部研修を充実させ、職員の意識も高い。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	法人内研修や外部研修に参加して、職員の虐待防止に対する意識を高めている。又、自宅や事業所で虐待が見逃される事が無い様、変化や気づきの共有を行うと共に、防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、外部研修等で学ぶ機会を設けている。又、ご家族からの相談に応じて、説明が出来るパンフレットを玄関に用意している。	権利擁護に関する制度に関して、家族に利用開始時や必要に応じて説明を行っている。玄関に資料を準備し、要望があれば説明と共に申立てに関するの橋渡しを行っている。職員の制度理解のため、内部研修を行い、グループホーム会議でも話し合いを行っている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、契約書、重要事項説明書を元に時間をかけて説明しています。利用者やご家族の不安や疑問を伺いながら他職種連携して説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者やご家族アンケートを取り、ご意見やご要望があれば、出来る限り対応しています。面会時は、ご家族とのコミュニケーションを大切に、ご意見やご要望をお聞きしている。又、ご意見箱を玄関に設置し、苦情要望に関しては、第3者委員会に報告している。	職員は日頃から利用者に積極的に言葉かけを行い、要望を聞いている。外出や活動に関する要望が多く、出来る限り対応している。また、利用者家族には、訪問時に利用者の近況を伝えることで、意見や要望を自然に聞き出している。更に、定期的に家族へのアンケートを実施している。事業所はこれらをサービスの向上に活かして、運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人での年1回の職員アンケートにより、意見を運営に反映しています。又、事業所の催し等月担当を決め計画・実地・報告を職員が行っている。	管理者は職員会議の他、職員の様子を見ながら声かけを行い、職員の意見を聞くようにしている。更に、年に2回の個別面談とアンケートの実施をするなどして職員から意見や提案を聞いている。出された意見はケア方法や行事の内容など様々で、出来る限り事業所運営に反映されるようにしている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人キャリアパスにより、自己評価・他者評価があり職員個々の努力や実績が分かりレベルアップで、給料に反映する仕組みがある。目標管理シート等により、各自向上心を持って働ける環境づくりに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	本人の資質や介護に対する情熱を重視した採用になっており、事業所には、経験、年齢様々な職員が従事しています。得意分野で個人の能力を発揮してもらい、勤務形態は、個人の状況に応じ必要に応じて検討し、働きやすい職場作りを心がけている。	職員の採用は法人本部によって行われ、性別、国籍などを理由に採用対象から排除されることはない。また、配属、定年延長に、本人の希望が考慮されるなど、安心して働ける職場環境を整えている。資格取得など自己実現に向けての権利の保証もされており、離職率も低い。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入職時新人研修や年間計画の中で、年2回の研修を計画し、外部研修参加も行っている。又、グループホーム会議にて、人権を尊重した対応の統一を図っている。	毎年、法人内で高齢者虐待や身体拘束の人権に関する研修を行い、職員は全員レポートを提出し、研修内容の確認の徹底に努めている。その他、外部講師を招いての研修や倫理研修を通して、基本的人権の尊重に意識を高めている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人は、職員育成マニュアルに沿って育成する仕組みがある。又、法人キャリアパスにより、レベル別に自己評価と自己目標管理シートにより目標設定して、年間を通じて自己研鑽と他者評価によりレベルアップと給料へ反映する仕組みがある。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	さらさらにネットやグループホーム情報交換会「糸の会」の会員になり、ネットワーク作りやラン伴参加・研修会参加等により情報交換や施設の質の向上に努めている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前や入居初期には、特に時間をかけて、ご本人との関係性を築くように心がけています。担当者を置き、ご本人の様子の観察や課題を見極め、不安軽減や対応の工夫を職員で共有して、環境を整えご本人が居心地良く、安心して過ごして頂ける様心がけています。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や入居初期には、特に時間をかけて、ご本人との関係性を築くように心がけています。ご家族の困っている事、不安な事、要望を確認して、施設側として出来る事を一緒に考えます。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学や申込をされる際、現状の把握を行い、必要に応じて、併設他事業所職員と相談し、その方にとって必要なサービスの提案を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、敬う気持ちを持って日々接しています。又、その方の能力を發揮して役割を持って頂き、一緒に生活する仲間としての関わりを大切にしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族との関係性の継続を第一に考え、細かい事でもご家族と相談しながら、ご本人を支えています。又、面会時に近況報告やご本人の想いや願いを伝え、その方らしい暮らしや思いの実現にご家族も協力して頂いています。又、ケアプランにもご家族の思いを反映している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染の方の面会の際には、お茶などを出しゆっくり過ごして頂ける様配慮をしている。お手紙のやり取りや電話の取次ぎや知人の面会にご家族にも報告し又、馴染の美容室や病院にも、ご家族が協力し同行して頂いている。	事業所は、利用者の友人や知人が気軽に訪問できる環境を作っている。また、電話のやり取りの支援や、利用者の生活していた地区の店に同行するなど、馴染みの場所との関係の継続に努めている。更に、利用者の近況がわかる写真を載せた「すみれの花便り」を毎月家族に送っている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を観察し、リビング席の配置を考慮したり、他者への依存が強い入居者は、職員が仲介しています。利用者同士、時には慰め合い、励まし合い、助け合い支え合って生活しておられます。職員は見守り、必要に応じてトラブル防止に努めています。孤立しやすい方へは、職員が仲介に入り関係性作りを行言っています。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設入所となり、契約終了となった方も出来るだけお見舞いや様子を伺いに訪問しています。併設施設へ入所された方に対しては、行事等でお会いする際、ご家族やご本人に声掛け関係性の継続を心がけています。又、必要に応じて情報提供を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活歴・趣味・思考・性格を踏まえ、ご利用者の言葉やその時の気持ちを何よりも大切にしています。職員の価値観と経験ではなく、ご本人の価値観や経験から物事をどう捉え何を感じ考えられているのか、共感的に受け入れるよう努力している。	日頃の会話や家族、知人から話を聞くなどして意向の把握に努めている。アセスメントで、昔の生活や趣味等を確認し、ネオンが好きな利用者やイルミネーションを見に行く等、利用者一人ひとりの思いや意向に沿った支援を行っている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に時間をかけて、生活歴・これまでの暮らし方・環境や利用したサービス等について幅広く情報を収集し、これまで何を大切にしてきたかや課題は何か等の把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の場と時間を共有し、寄り添う事でご利用者の1日の過ごし方や生活スタイル、リズムの把握に努めています。ご利用者のペースに合わせて出来る限り自由を保障して、ご本人の持っている力や思いの把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	収集したご利用者情報を職員間で共有し、グループホーム会議等で他職種と意見を出し合い課題の明確化を行い、ケアマネ、担当者、法人内隣接看護師、管理者、家族の意見や要望を踏まえ担当者会議で立案している。ご利用者の現状に合わせて3ヶ月～6ヶ月毎に、評価見直しを行っている。	本人、家族、看護師、担当介護士、ケアマネ、管理者で担当者会議を開催し、個別に具体的な計画を作成している。行動計画表にて実施状況の確認を行い、6ヶ月に1回、介護計画を見直している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実施記録を記入し、ご利用者の日々の様子、ケアの実地の記録は、PCにて随時入力し、職員間で情報を共有しています。毎月15日・月末には経過記録を入力し、介護計画にも反映している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況も様々でニーズに対して、可能な限り柔軟な対応を心がけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事の参加や地域のお店への買い出し、毎月第3日曜日に開催している地域カフェに利用者も参加して頂き、地域交流や社会参加を行っている。又、ラン伴のお茶出し等地域貢献活動へ参加して頂き、社会との繋がり継続支援を行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、ご家族、本人の希望を尊重して、入居前からの継続を希望される方は継続して頂く又、母体が協力病院であることから、入居後事業所の協力病院に変更される場合もある。受診が家族対応の場合は、定期的に生活状況やバイタル状況を（紙にまとめて）主治医に報告している。	利用者一人ひとりの希望を確認し、今までのかかりつけ医でも、協力医療機関での医師でも選択できるよう支援している。家族が受診に付き添う場合、日頃の生活状況が分かるように状況表を渡すなど、家族と協力しながら受診支援を行っている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルの変化や生活の中での変化、気になる事は、その都度併設看護に報告して、専門的立場での対応を委ねている。必要に応じて、看護からご家族に相談して、受診対応の検討を行い。緊急時には受診対応を行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した場合は、お見舞いに出向くと共に、看護師や主治医などと情報交換を行っています。又、環境の変化による利用者の混乱時は、馴染の職員が出向き、安心して治療が出来る様対応している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を定め、契約時に重度化した場合や終末期の在り方についてご本人やご家族の希望を伺っている。勿論、経過と共に、考えが変わることがある場合は、その都度相談して頂くように伝え、緊急時対応や重度化について同意書を頂いている。法人内に病院や特養施設があり、安心の一つとなっている。	重度化した場合に係る指針を明文化しており、利用開始時及び状況に応じて「緊急時の対応についての確認事項」にて延命治療について確認をとっている。終末期には話し合いを重ね、本人、家族の意向を最大限尊重し、施設で出来る範囲内での支援を行っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人で年間を通じて計画的に緊急時対応や緊急蘇生法、事故発生時の手順、夜勤開始時の研修等内部研修を実施している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成し、年2回併設施設と合同で昼夜を想定した避難訓練を実施している。運営推進会議の中に、避難訓練を計画し、地域の参加のもと訓練を行っています。隣のマンションの住人が、地震が起きた際、施設に異常なかったか心配して頂いた経緯もあり、地域協力体制が少しずつ築けている。	火災、地震等のマニュアルを作成しており年に2回、昼間・夜間を想定した避難訓練を実施している。地震や風水害を想定した訓練も実施され、消防署や地域住民も参加している。事業所内に3日分の非常用の食料や飲料水、備品を準備している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の生きてこられた歴史や一人一人の人格を尊重し個々に合わせた声掛けやプライバシーを尊重した対応を心がけている。	利用者一人ひとりの意向を確認し、同性介助を希望される場合は、同性の職員が対応したり、排泄を失敗した場合は、そっと居室に誘導したりとプライバシーに配慮した支援を行っている。研修ではeラーニングを活用し、全職員が視聴できるようにしている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の一方向的な働きかけではなく、「ご本人がどうしたいのか？」発語が難しい方へは思いを探り又、日頃の喧きに耳を傾け、生活の中で、おみやや希望を伺いながら自己決定出来るよう心がけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の中で、ご本人がどう過ごしたいのかを優先しての支援を心がけている。又、一人一人のペースを大切にし、出来る事への意欲を尊重し見守りながら、動きを把握しながら支援を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に沿って、訪問美容や馴染の美容室を利用しカットやカラーを行っています。化粧用品が不足したらご家族へ連絡したり、外出の際の洋服の選択やアクセサリ、起床時、入浴後等その方の状態に合わせて、声掛けや支援を行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃の食事は、法人厨房職員が栄養バランスや季節を考慮し、献立や調理を行っています。毎日の汁物やおやつ作りは御利用者で行い。料理の盛り付けや配膳、食器洗いは、ご利用者の出来る力を活かしながら職員と行っている。	味噌汁の具材のカットを利用者にして頂く等、利用者と一緒に準備や片付けを行っている。また、屋上の畑で一緒に収穫した野菜（さつまいも等）で天ぷらやパン料理を作ったり、饅頭やケーキなどのおやつ作りを一緒に行うなど食事が楽しみになるよう取り組んでいる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量をチェックし、摂取量の管理をしている。少ない方に関しては、好みの物の情報収集を行い又、随時食事形態や食べやすい食器の検討を行っている。水分は、1日1000CC以上を目標に小まめな提供を意識しています。月1回体重測定にて、体重管理を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の力に応じて毎食後、声掛けや口腔ケア介助を行っている。義歯は、毎日夕食後ポリドントにつけ必要に応じて、提携歯科往診を受診している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとりの排泄リズムを把握して、失禁なく、快適で清潔が保持されるよう心がけている。排泄時はタブレット入力し、介助が必要な方には、時間や本人のサインを観察しトイレ誘導している。又、入居時、おむつやリハパンを使用していた方でも、その方の力や声掛けにより、自立に向けた支援を心がけている。	利用者一人ひとりのサインをしぐさ等から読み取り、排泄リズムを把握し、定時に声掛けを行い、トイレで排泄できるように支援している。また、入居時、オムツを使用していた方でも、布パンツを着用して頂く等、自立に向けた支援が行われている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認表により、排便状況を把握して、排便困難者に対しては、牛乳にオリゴ糖とオリーブオイルを入れた物を飲んで頂いたり、散歩や運動を促し自然排便出来る様に支援している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	1人ひとりの生活習慣や好みの時間を考慮した入浴を心がけている。入浴拒否のある方へは、声掛けの工夫やタイミングを考慮している。又、温泉の元を湯船に入れたり、同敷地内の施設温泉を利用して頂き入浴が楽しいものとなるよう工夫している。	入浴を希望する場合は、毎日でも入浴ができるようにしている。入浴を拒否される利用者に対しては、散歩や畑仕事をした後に入浴してもらう等、工夫しながら支援している。また、月に1~2回は併設の特養の天然温泉に行く等、入浴が楽しめるよう支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりの生活習慣を考慮し、適度な午睡や運動、就寝の支援を行っている。又、不眠傾向のある方には、日中太陽の光を浴びて頂いたり、夜はヒーリング音楽や不安訴え時は、あたたかい飲み物の提供と一緒に過ごす等安心して頂ける工夫を行っている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の情報をファイルに入れ、いつでも確認できるようにしている。予測される副作用については、職員間で共有し、異常の際には看護報告している。薬の変更があれば、申し送を通じて周知している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯、食事の準備、片付け、生け花等生活の中で、その方の出来る事、出来るようなことを捜し役割を持って頂いている。音楽、菜園、新聞、習字等その方の生活歴に応じた支援や希望に応じての外出やお庭でのおやつ等少しでも生活が、楽しいものであるよう心がけている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物等希望に沿って戸外に出かけている。季節感を感じて頂ける様、コスモス、紅葉観賞等外出計画を立て出かけています。又、ご本人の眩きをご家族に伝え、願い実現出来る様ご家族に協力して頂いています。	敷地内の庭を散歩したり、ベンチでおやつを食べたりと日常的に外出支援を行っている。また、家族と協力しながら、外食やドライブ、コスモスや桜見、合唱団のコンサート、油山の石窯豆腐等に出かけたり、山口県の水族館まで遠出ししたりと、利用者の希望に合わせた支援を行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて金銭はご自分で管理されています。難しい方でも、不安の強い方には、お財布をもって頂き、紛失しない様見守っている。お買い物の支払いは、状況に応じて見守りながら支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持たれている方もいらっしゃいますが、持っていない方は、希望時施設電話を使って頂きます。又、遠方からの電話や手紙の取次ぎを行い、関係が途絶えない様にしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの椅子やテーブルはご利用者の希望や状況の応じてレイアウトを変えて居心地良く過ごして頂ける様工夫している。毎週木曜日には、季節の花が届けられ、ご利用者が生けた花を飾っている。対面式キッチンからの、お料理の香りで生活館を感じて頂き、窓から見える高木樹で季節感を感じて頂いている。	皆で話せる場所をつくるため、休憩場所を至るところに設けている。また、季節感を感じてもらえるよう季節の飾り物を飾ったり、テレビの音や光に配慮したり、ゆっくり過ごせるような音楽を流したりと居心地よく過ごせるような共用空間となっている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	エレベーター横の椅子、リビングのソファ、食堂テーブル、廊下イス等で思い思いに過ごされています。又、玄関前のベンチは、散歩後の休憩や木々を眺めリラックスできる場所として皆様お気に入りの場所です。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、出来る限り今まで使っていた慣れたものや好みの物の持参して頂き、ご本人の居心地いい空間づくりを心がけている。少しでも安心して過ごせ、ご自分の居場所だと思って頂けるように配慮している。	居室には本人が好きな花や家族写真を飾っていたり、今まで使用していた馴染みのものを持ち込んでいる。また、歩行能力を活かすため、本人、家族と相談し、導線に椅子を並べたりと利用者の個性が感じられる居室となっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人おひとりの状況に応じた生活導線に家具や物品の配置を行い、必要に応じて手すりやお部屋を真っ暗にする方には点灯センサーの設置・尿意はあるがトイレの場所が分からない方には、センサーマットを使用して、職員が声掛け見守りする事で自立を促す等出来限りご自分の力で行動できる環境作りを行っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		